

根深ネギの安定的な周年出荷技術の確立（R4～6）

総合農業技術センター

背景・目的

- JA梨北では、令和元年度、新たなネギの産地化に向け秋冬ネギを生産するネギ部会を設立し、生産したネギを「甲斐のぎゅぎゅっとねぎ」として商標登録
- 根深ネギは年間を通して需要があるが、県内で流通するネギの多くは他県産
- 鮮度が重要である県産ネギは、周年で底堅い需要
- 併せて、秋冬ネギの扁平の発生や厳冬期の葉傷み等の品質低下、同一圃場での連作による連作障害などの課題

⇒ 県産ネギの産地育成に向け、これまでの秋冬ネギの作型に、新たな作型を加えた周年生産体系技術を確立するとともに、生産面での課題を解決

これまでの作型

● 播種 ▲ 定植 ■ 収穫
□ トンネル

作型	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
秋冬どり	●		▲					■	■	■	■	■

周年出荷に向けた新たな作型

作型	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
春どり		■		●	▲							
初夏どり	□		■	■				●	▲	□	□	□
夏どり	▲				■	■					●	

各作型のデータ収集・解析による技術開発

研究内容

1年目

- 秋冬どりの適品種の選定
 - ・平坦地、高冷地の適品種
 - ・収量、品質、収穫期間
 - 官能評価、糖度
- 周年生産に向けた新たな作型の開発
 - ・春どり、初夏どり、夏どり、ハウス
 - ・収穫時期、収益性、気温、地温等のデータ収集と解析
- 連作障害を回避する輪作体系の確立
 - ・緑肥作物の品目、作付時期

2年目

- 新作型である初夏どりの脱春化処理方法の確立
 - ・高温条件、処理日数
- 秋冬どりの品質向上に向けた栽培管理技術の検討
 - ・栽植密度、かん水方法等
- 連作障害を回避する輪作体系の確立
 - ・緑肥作物の品目、作付時期

3年目

- 初夏どりの脱春化処理方法の確立
 - ・トンネル被覆方法、被覆期間
- 連作障害を回避する輪作体系の確立
 - ・ネギの3年2作化の栽培モデル策定
- 新たな作型を組み合わせた周年安定栽培体系の確立

期待される効果

- 高品質ネギの周年・安定出荷が可能となり、県産ネギの新たな産地を形成
- 新たな作型の開発、適切な品種を組み合わせ標高差を利用したリレー栽培により、県産ネギのブランド化と地域農業の活性化
- 新規就農希望者も導入可能な品目であり、担い手と産地の拡大を期待

